

# 九州正教会だより

第64号



(福岡・熊本・人吉・鹿児島)

2025年1月1日発行

発行人：司祭グリゴリイ水野 宏

〒811-2232 福岡県糟屋郡志免町別府西 2-7-1

TEL / FAX 092-410-0540

mail ocj.kyushu@gmail.com

ウェブサイト <https://www.ocj-kyushu.com/>



## 真のクリスマスプレゼント

司祭グリゴリイ 水野 宏

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

さて日本正教会の教会暦は、紀元前のローマで制定されたユリウス暦を用いています。これは16世紀末に、今日世界で広く使われているグレゴリオ暦が制定されるまで、ヨーロッパの標準的な暦でした。ユリウス暦で12月25日の降誕祭は、グレゴリオ暦では1月7日に相当しますので、私たちの降誕祭は今日では新年の祭ということになります。

降誕祭の聖体礼儀で読まれるマタイによる福音書の2章には、東方の三博士が生後間もないイエスを訪ね、黄金・乳香・没薬の三種の贈り物を献じたと記されています。主の降誕にあたって贈られたのですから、これはいわば「最初のクリスマスプレゼント」かもしれません。

黄金は王者の持ち物、乳香は神への祈りで献じるもの、そして没薬は死者の遺体に塗る香料です。つまり、これらの贈り物は「万物の王であり、祈りを通して讃美すべき神が、私たちと同じいつか死ぬ人間となってこの世に来てくださった」ことを意味しています。これは異教徒であるはずの三博士が、主の降誕の意味を正しく理解していたことを示すものです。

そしてその降誕したキリストが後に十字架上で死に、復活したことで人類の罪の赦しと永遠の生命が実現しました。その意味では主の降誕、つまり私たちの救いのためにキリストがこの世に来たこと自体が、神から私たち全人類に贈られた真のプレゼントだったのです。

主の降誕から2000年を経た今も世界中で人間の争い、とりわけ戦争によって多くの人々の生命が奪われています。キリスト降誕の地のパレスチナまでも戦火に包まれています。

新たな年を迎え、私たちはキリスト者として、世界平和の実現のために祈るのは当然ですが、まずはキリストにならって、他人に憎しみと争いではなく、いつも愛をもって接していく。つまり一人ひとりが自分の生活の中で平和を実現できるように努めて参りましょう。